

プロ野球を面白くする人々

阪神タイガースファン 名言珍言集

幸せのヒミツ

著・猛虎魂会

阪神ファンの抱腹絶倒人生語録

ええときもアカンときも、どっちかいうとアカンときこそ
読みたい本！ 阪神ファンのココロ、発想のチカラ大公開。
人生はものごとを面白くしたものが勝つ！

日本で一番のパワースポット、それは甲子園球場！ 今日もまた4万6千余の観客が球団歌『六甲嵐（おろし）』を高らかに歌い上げ、ココロをひとつにして喜びと哀しみを爆発させています。

本書は、「プロ野球をとことん面白くする人々―阪神ファン」に焦点をあて、彼らに取材や大量のアンケート調査を試みて、彼らの名言珍言を多数紹介しながら「なぜ勝っても負けても応援し続けるのか」、「アカンときは何を思ってどんなふうに考えるのか」、「なぜ、阪神ファンはあんなに楽しそうなのか」、「どうしてタイガースはこれほど愛されるのか」を追究したものです。

■ 本書2章より

阪神ファンの皆さんに「甲子園に足を運ぶ理由」についてたずねてみた。

理由その1＝「試合を見に行く」。当然だ。独特なのは、理由その2＝「甲子園に来る阪神ファンを見に行く」。理由その3＝「面白いヤジを聞きに行く」、理由その4＝「なんか面白いことを探しに」だった。これは多分、12球団でも阪神ファンだけのお楽しみではないだろうか。

阪神ファンは観戦の仕方そのものが面白い。甲子園に足を運ぶファンたちはゲームを楽しむのももちろんだが、「ゲームを楽しむ自分を楽しむ才能」に長けている。それでチケット代の3倍分ぐらいは楽しんで「今日も応援したったわ。あー面白かった」と思える一日をつくっている。

たとえ相手にぼこぼこに打たれる負け試合でも、何とかしてお楽しみを見つけて元をとろうという姿勢はくずさない。



■ 概要



- ・ 書名 『プロ野球を面白くする人々
阪神タイガースファン名言珍言集
幸せのヒミツ』
- ・ 著者 猛虎魂会、寄稿・植島啓司
- ・ 定価 1000円（税込み）
- ・ 版型、 ページ数 四六判 192ページ
- ・ 発売日 2008年10月1日

■ 目次・内容

- はじめに 人生はものごとを面白くしたものが勝つ
- 1章 阪神タイガースは人生の縮図
 - 2章 トラキチもうなる面白ヤジ迷言珍言集——球場に行くもうひとつのお楽しみ
 - 3章 阪神名物・助っ人外国人列伝
 - 4章 阪神ファンが溺愛した歴代選手たち
 - 5章 猛虎魂の超英才教育
 - 6章 トラキチオヤジたちの遺言集
 - 7章 阪神川柳に見るファンのキモチ
 - 8章 甲子園——聖地のチカラ 寄稿：猛虎魂会顧問・宗教人類学者 植島啓司
- なぜ阪神が好きなのか あとがき風に 植島啓司

阪神ファンは、勝っても負けても阪神を一筋に応援し続ける理由について、「**阪神は人生の縮図**」だからと言い、「**巨人が悪で阪神が正義—これが基本だ**」と力強く主張します。一方で、阪神は「**おっちゃん文化を継承**」し、「**エリートではない人間くさを伝える**」チームだ、「**アホで元気な息子ほどかわいい**」という心境を吐露。阪神の負けをぼやいて発散するのは、「**自虐ネタではなく、自信の表れ**」であり、実は「**トラキチの精神性はレベルが高い**」と、そのココロを語ります。

そして、甲子園ならではの「**センスばつぐんのトラキチもうなる面白ヤジ**」から、実際にあった「**トラキチオヤジたちの遺言集**」、「**トラキチのぼやき、嘆きをつづった阪神川柳の傑作**」まで、阪神ファンの名言、迷言、珍言を集めて彼らの「**発想のチカラ**」に迫り、「**勝ったらうれしいけど強すぎると逆に不安やで**」というトラキチの複雑な心理、心境、ココロ模様を迫ります。

さらには超々阪神ファンという宗教人類学者の植島啓司氏の筆により、阪神劇場の大舞台であり阪神ファンの誇りでもある「**甲子園—聖地のチカラ**」について考えました。

阪神ファンの**幸せのヒミツ**、**発想のチカラ**を関西弁の抱腹絶倒面白ことばでお楽しみください。

・ 7章阪神川柳より

「大量点 明日にとつとけ もったいない」、「どこに目え つけとるんじゃ 前見んかい」
「心臓が 何個あっても 足らんがな」

■ 著者紹介

猛虎魂会（もうこたましいかい）

大阪市、兵庫県西宮市、奈良県生駒市、京都市、東京都出身者を中心に阪神ファン歴7年～60年の6名と、見習い2名で結成する生涯トラキチの会。正式名称は「無敵の我等ぞ阪神タイガース・猛虎魂会」で、会長は株式会社ユンブル代表取締役・朝日奈ゆか。顧問は宗教人類学者の植島啓司氏。メンバーは職業を聞かれるとみな「阪神ファン」と答えるが、副業は編集者、ライター、システムエンジニア、不動産業、阪神ファン専門などばらばら。「猛虎魂とは」と「巨人め」について語り出すと収拾がつかず、誰も人の話を聞かなくなるが、「85年バース原理主義」で意志統一ができています。

植島啓司（うえしま・けいじ）

宗教人類学者。作家。猛虎魂会顧問。東京大学文学部卒、東京大学大学院人文科学研究科（宗教学専攻）博士課程修了後、シカゴ大学大学院に留学、M・エリアーデのもとで研究を続ける。NYのニュースクール・フォー・ソーシャルリサーチ（人類学）客員教授、関西大学教授、人間総合科学大学教授などを歴任。著書に『快樂は悪か』（朝日新聞社）、『賭ける魂』（講談社現代新書）、『偶然のチカラ』（集英社新書）他多数。「生まれつきの阪神ファン」で、阪神に関するコメントや執筆でマスコミ登場も多い。



貴媒体にて、本書のご紹介をぜひによりしくお願い申し上げます。

※ 右のサイトでも本書を紹介しています。<http://www.yumble.com/> 「ユンブル」とご検索ください。

※ 表紙の写真、イラストもデータをご用意しておりますのでお申し付けください。

■お問い合わせ先 株式会社中経出版 編集局 担当：大淵隆

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-2 TEL:03-3262-2124 FAX:03-3262-0666

E-mail: oobuchi@chukei.co.jp <http://www.chukei.co.jp/>